

スペクトラム・オブ・ザ・シーズの香港発着日本・フィリピンクルーズ(その1)

事務局長 池田良穂

中国のクルーズは、2006年のコスタクルーズの進出以来急速に拡大し、瞬く間にクルーズ人口は日本の6倍の240万人に達しました。ただし、これまで急成長していた北部のマーケットは踊り場になっており、南部のマーケットの拡大が始まっているといます。そこで南部発着クルーズに乗船したいと思っていたところ、半年ほど前にミキツアーリストから香港発着のRCIの最新鋭船「スペクトラム・オブ・ザ・シーズ」の日本・フィリピンクルーズの案内をいただきました。さっそく予約をして、いつものように左舷側のベランダ付きのキャビンを確認しました。1週間クルーズで料金は12万円ほどとリーズナブル。香港までの飛行機便も安く手配ができました。

12月21日の朝に関西空港を離れたANA便はガラガラの状態でした。香港での政治的混乱が観光客を減らしているのでしょう。5時間余りで香港空港に到着。

タクシーで、九龍のマカオ行の高速船のターミナルの上にあるホテルに向いました。タクシーは香港市街地に入ってから大渋滞になり、いつもは40分ほどで着けるのに、なんと2時間近くかかりました。その理由は、中心市街地に入る手前で警察が1台ずつの車を検問しているためでした。やはりデモの警戒なのでしょう。

ホテルロビーはビルの3階にあり、2階にはマカオ行のフェリーターミナル、地下は空港行のバスやタクシーの発着場になっています。ホテルの玄関をでるとすぐにフェリー埠頭の上屋の屋上で、眼下に出入港する高速旅客船を見ることができます。また、客船ターミナルであるオーシャン・ターミナルまでも徒歩5分。さらにその隣が有名なスターフェリーの乗り場なので香港島まで行くのも容易で、船ファンには嬉しいロケーションです。到着した夕方と、翌朝に「スペクトラム」に乗船するまで、久しぶりの香港でのシップウォッチングを堪能できました。まずは、その報告からはじめます。



香港空港に降りる飛行機から見ると、香港全体がスモッグに霞んでいました。この状態は香港にいた2日間ともでした。



オーシャン・ターミナルには「シルバー・スピリット」が停泊していました。大型船はカイトックの新クルーズターミナルに着きますが、中型船は市街地に近いオーシャン・ターミナルを利用しているようでした。カジノ船はまだ健在で、市街地で案内を配る女性を何人か見かけました。ただ、カジノ船は岸壁には着かず、港内のブイに係留されて乗客をボートで運んでいます。



オーシャン・ターミナルの先端の中華料理屋で夕食を楽しんでいると、「シルバー・スピリット」が出港していきました。背景は香港島の夜景です。



マカオ行の高速船ターミナルの全景で、5 隻の高速船がいます。背景の金色のビル群の中の一番右の建物が筆者が宿泊したホテルです。



九龍側のマカオ行の高速船ターミナルには、30 分おきくらいに数隻の高速船が出入港します。香港島側にも同様の高速船ターミナルがあります。香港とマカオは海上道路で結ばれましたが、高速船はまだ健在のようです。



九龍半島と香港島を結ぶスターフェリーは、海底トンネルが 3 本開通した今でも健在でした。横断時間は 5 分ほど。料金は大人は 3.7 ドル。邦貨で 60 円ほどでした。



香港島側には、香港内の周辺の各地や離島行の客船が発着する棧橋が何本も並んでいて、出入港船が頻繁に出入りしています。



高速船だけでなく、普通船と呼ばれる客船も健在です。料金は高速船の半額程度のようなです。



波静かな香港港内も高速船が走り回っているため、その航走波で小型船は結構波をかぶっています。